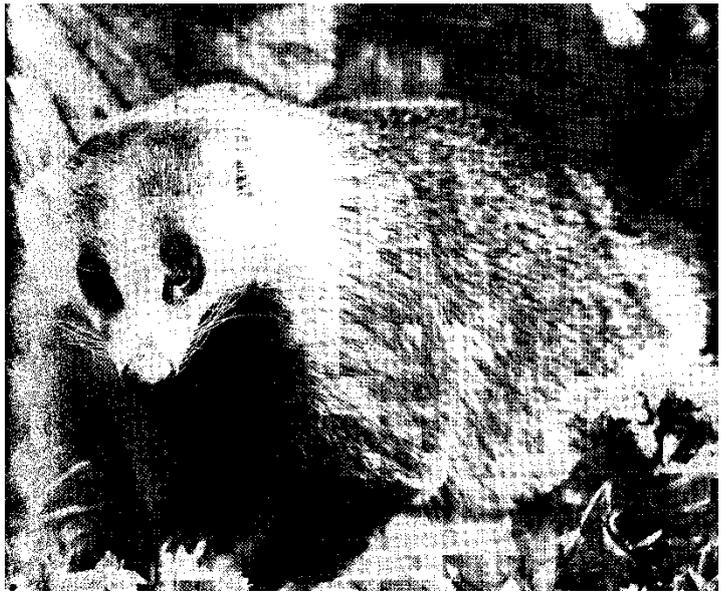


中型動物

アナグマ



アナグマはイタチ科に属する日本の在来種です。(昔から「むじな」と呼ばれている)長い爪と発達した前肢を使って、長く複雑な巣穴を掘って生活しています。

アナグマの体は褐色ですが、一様ではなく、頭部の毛色が少し薄く、足の毛が濃色の個体が多いようです。

アナグマの顔には特徴的な模様があり、目の周囲はパンダのように黒か黒褐色の毛で覆われています。パンダは斜めの楕円形の模様ですが、アナグマは縦長の楕円の模様です。この模様に乗った鼻の部分が白いので、よくハクビシンと間違えられてしまいます。

頭から尾までの体長は45～75㎝程度、尾は10～20㎝程度です。メスに比べてオスが大きく、また、地域によっても体の大きさに差があります。

体重は4～15㎏程度ですが、一部の地域の個体は体格が小さく、成獣のメスで4㎏程度、オスで6㎏程度の個体もいます。

Q アナグマの特徴を教えてください

A アナグマは褐色の毛で覆われています。目の周りはパンダのように黒くなっています。パンダは斜めの楕円形の模様ですが、アナグマは縦長の楕円の模様です。この模様に乗った鼻の部分が白いので、よくハクビシンと間違えられてしまいます。頭から尾までの体長は45～75㎝程度、尾は短めで10～20㎝程度です。オスはメスに比べて一回り大きいサイズです。また、地域によっても体の大きさに差があります。体重は4～15㎏程度と言われていますが島根県など一部の地域の個体は関東の個体よりも一回り小さいようです。アナグマの足は5本指であり、穴を掘って生活するのに適した長い爪を持ちます。

また、アナグマはほとんど声を出しません。とてもおとなしく、他のイタチ科の動物と比べて落ち着いています。すでに成長した個体を飼育管理下に置いた場合、他の野生動物に比べて早く人間に慣れます。餌を欲しがる場合でも鳴くことはありません。近寄って来て、じーっと見つめてきます。唯一声を出すと言ってもいいのが威嚇のときです。臆病ですが、威嚇行動は激しく、迫力があります。「ガッ」と声を出して突進して直前で止まります。

Q アナグマは何を食べる

A アナグマは色々な物を食べる雑食性です。生殖地域で手に入る昆虫や小動物や三三ズをよく食べています。鼻を地面に入れミミズを口でくわえた後に頭を上げ、チュルチュルとミミズをうどんのように食べます。イチゴやカキなど、果物も好んで食べます。ミミズなど、土の中の餌を

探すときは鼻を地面にねじこむようにします。このような餌探しが行われた場所には直径数センチから5センチくらいの小さな穴が点々とできます。

Q アナグマは夜行性と聞きましたが鼻が良いのですか？

A アナグマの感覚能力について詳しく研究されたものはほとんどありません。アナグマの嗅覚は優れているとする記述もあります。

しかし、視覚と比較してのことであり、科学的な研究データはほとんどありません。イヌのような嗅覚を持っているわけではないようです。野外でアナグマに遭遇した人たちの経験から、比較的鈍感な動物と考えられています。アナグマは餌探しなど、他のことに気を取られていると、そばにいる人間に気づかないことがあります。足下にアナグマがいて、人間の方がビックリすることもあります。

Q アナグマの被害対策を教えてください

A アナグマの対策こそ、予防が一番です。アナグマのしつこさは農作物被害を起こす野生動物の中でも一、二を争います。まずは農作物を食べさせないことです。近所でアナグマの被害が報告されたらすぐにでも行動を起こしましょう。徐々に対策していこうという気持ちではいつまでたっても防ぐことはむずかしいでしょう。

アナグマは夜間に活動する傾向が強いため、被害も夜間に起きることがほとんどです。集落内では茂みや側溝などを使って移動することが多いのですが、慣れた場所では意外に大胆で、舗装道路も平気で歩きます。何も対策をしていない農地では当然のことながら簡単に侵入されてしまうでしょう。

イノシシ対策などの防護柵を設置している場合、柵の穴や隙間、金網やネットの目合いが大きい場合はくぐり抜けて侵入します。くぐり抜けられる隙間がない場合には、地面を握り、トンネルを作って柵の中に侵入します。また、アナグマが掘った穴をタヌキなども利用して農地に入ってしまう。一度アナグマに地面を掘られて侵入されてしまったら、その穴だけを塞いでもすぐ横に次から次へと穴を掘られてしまいます。何度も侵入を繰り返されるので、なるべく広範囲に地中を塞ぎましょう。すでに設置した柵の地中はすべて塞ぐべきだと考えてください。

アナグマに侵入されないために、

1 柵は地面に埋め込む構造

2 隙間をあけない

3 ワイヤメッシュ（金網）の目合いは7・5センチ四方以下

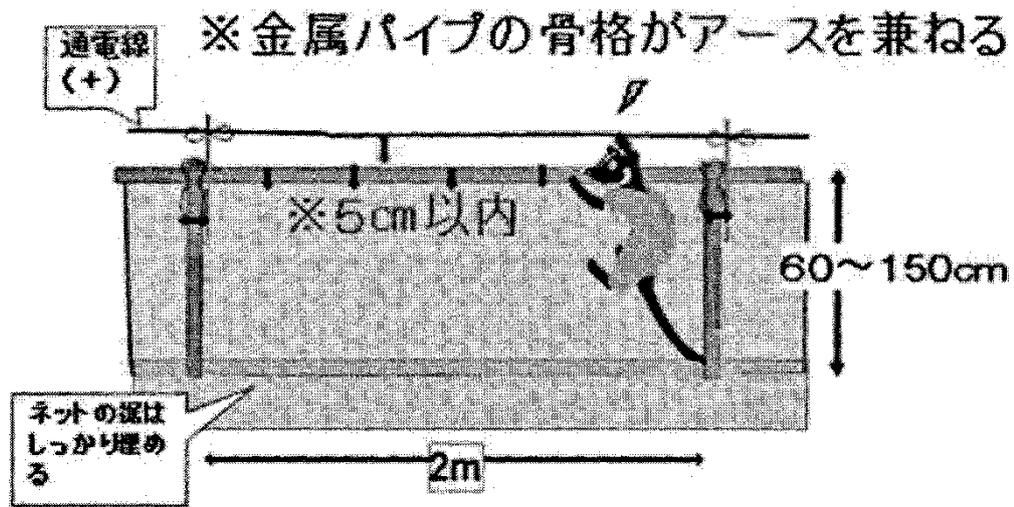
であることを念頭に柵を設置します。トタン板を使用する場合、地面に20センチ埋め込むと、地上部の高さが45センチになります。この場合、アナグマの指先が柵のてっぺんに届いてしまうので防風ネットなどで高さをつけてください。金網ではよじ登ってしまう可能性があります。トタンは地中に埋めずに他の素材で地中を埋めても構いませんが、地際でのトタンとのつなぎ目に隙間ができないようにしてください。

また、ワイヤメッシュなどを地中に埋める際も7・5センチ四方以下の目合いを使用して下さい。8センチ四方の隙間をくぐる成獣もいます。電気柵を使用する場合は、地面から10センチまたはそれ以下の間隔で4段以上、最上段の高さが40センチ以上になるまで張ります。しかし、この張り方は雑草管理が大変なのでおすすめできません。著者らが行った中型動物の運動能力試験に基づき、埼玉県農業技術センターで開発した防護柵（楽々くんや電落くん）も有効ですので埼玉県農業技術

センターのHPで参考にしてください。埼玉農業技術研究センターURL＝
<http://www.pref.saitama.lg.jp/b0909/cyoujiyuu-tantou.html>

白落くん

◇対象害獣: 中型害獣全般
(ハクビシン、アライグマ、タヌキ、アナグマ等)



Q 木登りが苦手なアナグマは果樹園に来ることはない？

A いいえ、喜んでやって来ます。木登りが不得意でも、果樹園にはたくさんの果実が落ちていきます。アナグマはこれらを喜んで食べます。また、肥沃な農地ですから好物のミミズもたくさんいます。木登りは不得意ですが、角度の緩やかな幹や太い枝を登る個体がたまにいます。果樹園などでは果樹棚の柱を補強するために筋交いを設けることも多く、アナグマがこの筋交いを利用して棚に登って、ブドウなどの果実を食べることがあります。この筋交いに太いコンクリートの柱が使われることもあり、アナグマにとって比較的登りやすいようです。

アナグマが食害した後はブドウのつるが垂れ下がっていることがあり、バランスを崩したアナグマがつるにつかまりながら落下したような痕跡が見つかることもあります。

江口祐輔著『被害の原因は「間違った知識」にあった！ 本当に正しい鳥獣対策Q&A』（誠文堂新光社）

http://www.seibundo-shinkosha.net/products/detail.php?product_id=5206

